

事業所名		Linkerミーム【放課後等デイサービス】				支援プログラム（参考様式）		作成日	2025 年	2 月	1 日
法人（事業所）理念		「『生んでくれてありがとう』、『生まれて来てくれてありがとう』」を創る。									
支援方針		問題行動の改善、未発達の部分の成長を促す事に特化した専門的な支援を実施。「預かるだけ」や「1つの領域だけ」の療育ではなく、総合的な療育を行う。問題行動、未発達の原因を観察→評価→仮説策定→個人に合わせた療育方法の選定。「寄り添う」「様子を見る」「この子の個性」などの抽象的な支援ではなく、「今、何をどのようにすべきか」を示す具体的な支援。個人の特性の問題から、集団生活に必要な力の獲得、環境調整までありとあらゆる支援を行う。療育形態は【集団療育】									
営業時間		15 時		00 分から		18 時		00 分まで		送迎実施の有無	あり
		支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	まず「正常発達上の行動の未獲得なのか（①）、何らかの問題により行動の未発達なのか（②）」を整理し、②であれば「何が問題になっているか」、「どのような経験が必要か」を見つけ、提供していきます。①に関しては、経験値が一定数値に到達すると解消できますが、早く獲得して貰いたい場合は保護者様と相談しながら進めます。どちらにしても、利用児童の「今、できる能力上の最大限の活動」を引き出せます。例）学校生活でのトラブル改善、起床就寝等の時間管理、ゲーム依存の改善、正しい日常生活を営むことで余暇を楽しめる仕組みづくり。									
	運動・感覚	運動・感覚面に関しては、ネット情報が氾濫しており、保護者様の認識も整理するためにまずはしっかりとした観察、評価を行う。アプローチとしては、自由遊びの中で個々人に合わせた身体の使い方を「創って」行きます。目的としては、運動・感覚に必須な「アクティブ性（自発性）」を作り出す事です。感覚から認知、情緒に運動していくが見落とされがちなので、しっかりと支援していく。									
	認知・行動	独自のプログラムを作成し、設定療育をあえて行わず、自由遊びの中で自然発生する不適切行動に対して、大人が専門的且つ楽しく対応しながら利用児童に正しい行動を学習して貰う。 例）①情緒コントロールプログラム：「自分でエンエンおしまい法」、「オンオフ切り替え法」、「皆と同じができました！法」等々。 ②視覚弁別、聴覚弁別プログラム：「聴覚入力、視覚出力トレーニング」「宝探し法（視覚ver、聴覚ver）」、「視覚聴覚別のワーキングメモリ訓練法」、「視覚聴覚を使った表象機能トレーニング」等々。③自傷他害ゼロプログラム→「つば吐き卒業法」、「皆と遊ぶと楽しいね法」等々。									
	言語 コミュニケーション	二語文、三語文の児童に対して「なぜ二語文、三語文で言語発達が止まっているのか」を考え、その原因をトレーニングしていく。日常生活の中でもトレーニングは可能であり、むしろ自然なやり取りから学ぶ。もちろん個別課題として、丁寧に学べる課題も提供。									
	人間関係 社会性	人間関係、社会性は、認知、言語、コミュニケーション等のすべての項目と関係しているため、まずは各項目の支援をしっかりと行う。同時に、利用児童がその時に「どの社会（環境）に属しているか」を確認し、その社会（環境）の未成熟性を鑑みて保護者様と相談しながら支援していく。小学校低学年と高学年の違い、中学校は何を目指して生活するのか、3年後に社会に出る（成人する）事を見据えた高校生活等の広義な目標から、個人間の									
家族支援		利用児童と保護者様の関係性の問題や、学校での問題、進路問題等々、小学校以降に直面する多様な問題に対して、幼少期から継続的な支援を行っている立場から、ご家族に対する直接援助、間接援助を行う。				移行支援		小学校→中学校、中学校→高校、高校→社会への引継ぎは、各学校で必ず行っているが、小学校～高校まで連続した支援を提供している専門家として、連続性のある情報及び支援を提供する。			
地域支援・地域連携		他事業所との連携（西児連参加）、社会福祉協議会・子ども家庭支援課・保健センター等から支援の依頼を受け可能な限り対応、地域の高齢者・児童等が集えるイベントの開催（2025年に開催を目標）				職員の質の向上		実際に児童を現場で支援し実績を残されている有名な先生方の療育セミナーへの参加、福祉業界以外の多角的な学びの支援、事業所内の研修、有給休暇しっかり取得、年休125日以上確保			
主な行事等		遠足、運動会、クリスマス会、保護者会、ペアレントトレーニング等									